

# 會 務

第二十卷第二號 昭和九年二月

## 役 員 會

### 第一回役員會

開催日 昭和9年1月10日

出席者 會長 眞田秀吉君 前會長 名井九介君  
 副會長 米元晋一君  
 常議員 三浦七郎君 内海清温君 衣斐清香君 神原信一君  
 田中豊君 竹股一君  
 主事 牧野雅樂之丞君

#### 協議事項

1. 關西支部豫算に關する件  
 昭和九年度關西支部豫算を承認せり。
2. 職業紹介に關する件  
 求人求職依頼用紙(カード式)を年一回以上會誌に綴込み依頼者に對しては本會員に限り出來得るだけ紹介の勞をとること。  
 依頼用紙記載要項に關しては原案を修正し次回役員會にて協議決定すること。
3. 通常總會開催日時の場合  
 通常總會を昭和9年2月15日(木曜日)午後4時30分より帝國鐵道協會に於て開催すること。
4. 通常總會當日講演の場合  
 會長の挨拶及代議士伊藤仁太郎(痴遊)氏に「大久保侯と土木公債」の演題の下に講演を依頼すること。
5. 役員選舉開票に關する件  
 役員選舉の投票用紙は2月初旬役員會を開催して同會にてこれを開票の結果を通常總會に報告承認を得ること。
6. 臨時役員會招集の場合  
 1月22日午後5時より臨時役員會を開催すること。
7. 入退會に關する件  
 佐藤應次郎君外14名を會員に、白石虎雄君外40名を准員に、武内清徹君外26名を學生員として入會を承認し安部正巳君外117名の准員を會員に轉格承認せり。  
 會員岡村利重君外1名准員岡本文夫君外4名の退會を許可せり。

### 臨時役員會

開催日 昭和9年1月22日午後5時

出席者 眞田會長、名井、那波兩前會長、大河戸、米元兩副會長、神原、黒田、竹股、田中、田邊、那須各常議員、平井、牧野兩主事、草間編輯長

#### 協議事項

1. 昭和八年度第一土木賞牌を贈呈すべき優秀論文に関する件

昭和八年度第一土木賞牌を贈呈すべき優秀論文は編輯委員會より

會員工學博士福田武雄君著“Theorie der Roste und ihre Anwendungen”

を推薦せられたるを以つて審議の結果同論文に昭和八年度第一土木賞牌を贈呈することに決す。

2. 昭和八年度事業報告の件

3. 同 年度決算報告の件

4. 同 年度關西支部事業及び決算報告の件

以上 3 件は原案の通り承認せり

5. 定時總會順序に関する件

定時總會の順序は下記の如く決定す。

日 時 昭和 9 年 2 月 15 日(木曜日)午後 4 時 30 分

場 所 帝國鐵道協會

1. 事 業 報 告

2. 決 算 報 告

3. 役員選舉報告並に紹介

4. 會 長 撈 接 以 上

講 演 衆議院議員伊藤仁太郎(宛遊)君

演 題 大久保侯と土木公債

晚 餐 會 帝國鐵道協會に於て

6. 役員選舉投票に関する件

役員選舉投票の開票は本會々議室に於て 2 月 6 日(火曜日)午後 5 時より執行すること。

編 輯 委 員 會

第一回編輯委員會

開 催 日 昭和 9 年 1 月 15 日

出 席 者 編輯長 草 間 偉君

委 員 青 木 楠 男君 岩 澤 忠 恭君 久 保 謙君 關 信 雄君

高 橋 三 郎君 中 原 壽 一 郎君 宮 本 武 之 輔君

協議事項

1. 第十九卷第十二號所載下記論說報告に對し討議依頼先を決定す。

琵琶湖運河及日滿運輸聯絡問題

會員 工學博士 田 邊 朔 郎

2. 第十九卷第十二號所載論說報告及び彙報に對し夫々謝禮の階級及び金額を決定す。

今後同一表題の下に分割登載せる論說報告に對しては完結を俟つて謝禮を決定することに決議す。

3. 第二十卷第一號に下記を追加す(事後承認)。

彙 報

吉野橋架橋工事概要

准員 工學士 末 松 榮

## 4. 第二十卷第二號に下記追加の件

## 論 說 報 告

特殊架橋論 (第一編)

准員 工學士 横 道 英 雄

## 討 議

吾妻橋舊橋井筒爆破作業と壓搾空氣潜函工事概要

會員 正 子 重 三

地盤軟弱なる大阪港に於ける繋船岸壁及防波堤工事の特種工法に就て

會員 松 田 健 作

## 特 許 抄 録

検水装置, 高速軌道用鐵道自働車輛, 瀝青乳劑製造法, 低地改良装置, 軌條の波狀磨耗發生の豫防方法, 鐵筋コンクリート用埋込子, 通水管防蝕装置, 二重扉附堰止装置, 地下鐵道構築法, コンクリート・モルタル等よりなる建造物の破壊方法, 浮堤。

## 參 考 資 料

群杭と單杭の支持力

(野 坂 孝 忠)

橋脚基礎の壓力分布

( " )

## 5. 第二十卷第三號登載論文決定之件

## 論 說 報 告

上水道に於ける二重濾過の實驗的考察

會員 島 崎 孝 彦

## 6. 昭和八年度優秀論文に關する件

前回委員會にて選擇せる 5 著者, 5 論文中次の論文を昭和八年度第一土木賞牌を贈呈すべき優秀論文として推薦し, 役員會に報告する事に決定す。

『昭和八年度第一土木賞牌を贈呈すべき優秀論文推薦之件 編輯委員會は昭和八年度第一土木賞牌を下記論文に贈呈するを適當と認む。

第十九卷第七號及第十號所載 會員 工學博士 福 田 武 雄 著

“Theorie der Roste und ihre Anwendungen”』

尙本文は第十七卷第五號第十號及第十八卷第六號に續いて登載せられたるものなり。

## 7. 土木學會誌發行者名義變更之件

從來本會誌の編輯兼發行者は北村嘉太郎君なりしがこれを變更する必要を生じたるを以つて本委員會にて種々協議の結果書記長柴原龍兒君を推すこととし主事にこれを踏ることに決す。

## 8. 抄譯に關する件

抄譯擔當の制度改正に就て種々協議せり。

## 9. 其 他

昭和 9 年 1 月より論說報告著者の勤務職名を脚註として記載することに決す。

## 二十周年記念事業委員會

### 第一回委員會

開催日 昭和 9 年 1 月 30 日

出席者 會 長 真 田 秀 吉 君  
 副 會 長 大 河 戸 宗 治 君 同 米 元 晋 一 君  
 委 員 井 上 秀 二 君 池 邊 稻 生 君 小 川 織 三 君 阿 野 昇 君  
 大 島 滿 一 君 木 津 正 治 君 草 間 偉 君 黒 田 武 定 君  
 黒 河 内 四 郎 君 近 新 三 郎 君 錢 高 作 太 郎 君 丹 治 經 三 君

那波光雄君 那須章彌君 沼田政矩君 野口寅之助君  
 萩原俊一君 古川阪次郎君 前川貫一君 眞島健三郎君  
 宮長平作君 米山辰夫君

眞田會長より二十周年記念事業につき特別委員會に於て慎重審議の結果土木會館の建設が最も適當なりとしてその案の報告ありたる旨を述べ、井上特別委員長よりその案に就き特別委員會に於ける當初よりの経過並に土木會館建設の内容に互り委曲説明をなし各委員より質問應答あり結局該報告案を基礎として次回委員會迄に各委員に於て研究することとして散會す。

## 維新以前日本土木史編纂委員會

### 第十五回維新以前日本土木史編纂委員會

開催日 昭和9年1月24日

出席者 副委員長 眞田秀吉君  
 委員 伴 宜君 板井由生君 久野直君 眞島健三郎君  
 小川織三君 安藝杏一君 池本泰兒君

前回の委員會後本日迄に集まりたる資料の報告照復事項累計報告を爲し土木史編纂に關する詳細なる協議を爲せり。

#### 協議事項

1. 土木史編纂關係のこれ迄の支出せし費用を調査し置くこと

## 土木學會關西支部記事

### 土木學會關西支部役員の改選

昭和9年1月27日第七回大會に於て支部長並に商議員半數改選の結果昭和九年度支部役員及び職員下記の如し。

支部長 (新任)	松島寛三郎君	商議員 (留任)	平瀬三雄君
商議員 (新任)	吉岡計之助君	" "	齋藤飾君
" "	近藤泰夫君	" "	三浦矩明君
" "	杉谷茂君	" "	大木外次郎君
" "	福留並喜君	" "	柴田辰之進君
" "	興田喜知藏君	幹事長	近藤博夫君
" "	富田恵四郎君	庶務幹事	高橋末次郎君
" (留任)	島崎孝彦君	會計幹事	柴田辰之進君

以上

## 其の他記事

○日本工學會用語統一調査委員會の本會代表委員は從來藤井眞透君、沼田政矩君なりしを那須章彌、福田武雄の兩君に變更せり。

- 昭和9年1月17日役員選舉投票用紙その他を全會員に送附せり。
- 昭和9年1月29日通常總會開催通知狀を全會員に講演通知狀を全准員學生員に夫々發送せり。
- 昭和9年1月29日土木學會誌第20卷第1號發行成規の手續を了し1月30日これを全會員に配布せり。
- 昭和9年1月中に於て入會及び轉格の手續を了し名簿に登録したる者下記の如し

會 員	佐藤應次郎	西川總一	藤田金次郎	印南正彦	杉山食一
	古谷晋	野原幸輔	石村長七	清水本之助	兼田政吉
	秋月榮次	西岡貞喜	佐々木友衛	堀江元一	三浦庄之助
准 員	白石虎雄	力石鎮男	越田嘉一	伊藤澄雄	辻中忠三郎
	北田元次郎	妹尾均	大平秀司	近藤佐一	鈴木若三郎
	相良正	杉山金重郎	中路唯如	堀初儀	神谷喜平
	鈴木進一	鈴木茂吉	林滿一	谷整	藤波善郎
	長坂六郎	興相憲一	泉協一	新堂宏	加藤清治
	玉井正彰	岸重光	鈴木一雄	仲渡喜代市	鈴木一郎
	石河廣喜夫	石村早男	後藤新藏	奥本圭一	濱崎禎四郎
	野口正夫	平松頼夫	鈴木正良	後英太郎	齋藤之行
學 生 員	武内清	野中久光	篠光久	松尾剛	小林長雄
	青木利武	北浦太三	武市幸三	安東弘雄	神田祐弘
	富田節也	岩間元壽	三井吉一	内藤野一	福浦原正
	渡部吉光	松木村	里關一	淺中	大平重
	勝田義文	堤			

准員より會員に轉格したる者

會 員	安部正巳	安藤太郎	淺見詢二	青木信夫	秋山頼一
	淺野好恵	岩崎瑩三	石川時三	池田義男	井上木一
	伊藤政清	石井多隆	飯田大善	小野道人	小野音治
	打林清亮	上床久太郎	江崎啓次	大野臺助	大野政茂
	小川一治	小岡部大二	岡山榮治	岡野倍藏	大川口正
	小田金治	樋浦大晴	片原恭次	川野谷俊	北村直志
	加藤嘉太郎	加藤村芳雄	勝海武之助	銀九鬼秀健	久保長三
	北村信光	小藤義一	小林幸七	小柳木大	今野俊策
	楠村政守	小藤志郎	河野英記	佐坂田治	佐藤武幸
	近藤藤	小佐藤一	清水幸雄	篠宮彌健	重賀芳政
	清水千代	鈴木龍則	住高喜二	篠高千	須高松太郎
	關野忠治	田立花次郎	高種寺師	千田虎之助	塚本精道
	高寺健三	照井隆三	寺永原	德長原	富野口悦義
	戸澤耿茂	原雄次郎	原田清	原田春三	野美本
	濱田健二	藤卷欣四	船岡	堀永徳	本庄

町 田 實	松 尾 春 雄	松 下 宅 一	正 木 範 二	松 村 孫 治
松 本 龜 司	水 田 太 治	宮 本 保	宮 本 九 郎	皆 川 久 夫
見 山 剛	武 藤 清	山 田 勝 則	山 本 一 之 助	山 本 幸 夫
矢 野 諭 理 男	吉 田 光 夫	岩 本 常 次		

○昭和 9 年 1 月中に於て寄贈又は交換を受けたる雑誌その他下記の通り

會社と建築第十七輯第一號	日本建築協會
土木試験所報告第二十五號	內務省土木試験所
鐵と鋼 第十九年第十二號	日本鐵鋼協會
三菱電機 第九卷第六號	三菱電機神戸製作所
セメント工業九年一月號	セメント工業社
工 政 第 165 號	工 政 會
日本建築士第十三卷第六號	日本建築士會
都市問題 第十八卷第一號	東京市政調査會
土木建築雜誌第十三卷第一號	シビル社
機械學會誌第三七卷第二〇一號	機 械 學 會
生 産 管 理	生 産 管 理 社
港 灣 第十二卷第一號	港 灣 協 會
工 學 No. 233	東 京 工 學 社
日本ニツケル時報 No. 1.	日本ニツケル情報局
工業化學雜誌第 37 編第一冊	工業化學學會
工業化學雜誌歐文綴 No. 1.	〃
東京工業大學學報第 2 卷第 12 號	東京工業大學
セメント彙報 第 310 號	日本ポルトランド・セメント同業會
滿洲の道路事情座談會第十四輯	道 路 研 究 會
計 量 界 260	日本度量衡協會
滿洲電氣協會概要	滿 洲 電 氣 協 會
土木及建築の建築物に對する地質調査に就て	西 尾 銚 次 郎
京郡四條通を通ずる東西斷面に就いて	西 尾 銚 次 郎
國立公園 第六卷第一號	國 立 公 園 協 會
電氣學會雜誌第五四卷第五四六號	電 氣 學 會
東京土木建築組合報第七卷第一號	東京土木建築業組合
業務研究資料第二十一卷第四十三號, 第四十四號。第二十二卷第一號	鐵道省大臣官房研究所
工業化學雜誌附錄第十號	工 業 化 學 會
鐵道技術 第八卷第一號	鐵 道 技 術 社
工學彙報 第八卷第五號	九州帝大工學部
稻工會雜誌第十四號	早稻田高等工學校稻工會
建築雜誌 第五八〇號	建 築 學 會
河海工學 (第二編) 地下水	丸善株式會社出版部
G. S. News 1 月號	日 本 電 池 株 式 會 社
水 道 9 卷 1 號	水 道 社
日本鑛業會誌 第 50 卷第 585 號	日 本 鑛 業 會
會 報 第 35 卷第 1 號	帝 國 鐵 道 協 會

工 人 第 141 號  
 日立評論 第 17 卷第 1 號  
 地震観測報告 自大正 13 年至昭和 5 年  
 土壓及び地盤の支持力第一卷  
 帝國學士院紀事 第 9 卷第 10 號  
 電氣鐵道軌道整備心得(地方鐵道並軌道の部)  
 九大工學部紀要 第 7 冊第 3 號  
 朝鮮河川調査年報 {昭和 4  
 // 5} 年度  
 電氣學會雜誌自第 534 號至第 545 號

日本工人俱樂部  
 日立評論社  
 東京帝國大學地震研究所  
 コ ロ ナ 社  
 帝國學士院  
 電氣協會關西支部  
 九州帝國大學  
 朝鮮總督府  
 電 氣 學 會

名譽會員 前會長樞密顧問官工學博士男爵古市公威君は昭和九年一月二十八日逝去せられたり 本會は弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表したり

會 員 前會長工學博士日下部辨二郎君は昭和九年一月二十二日逝去せられたり 本會は弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表したり

會 員 森垣龜一郎君は昭和九年一月二十二日 同能見光男君は同年一月二日逝去せられたり 本會は弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり

## 會 報

第二十卷第二號 昭和九年二月

## 役 員 會

第一回役員會は1月10日午後5時より學會々議室に於て開かれた。一昨年來より學會の振興が叫ばれ各役員方躍起となつてこれが目的貫徹に盡力された結果昨年中に於て學會の大改革が斷行され、今回はこれが更正の第一年初頭における初役員會にして各役員方重責を果されし後の一先づ安堵の氣分にて定刻前より眞田會長、名井前會長、米元副會長及び三浦、内海、衣斐、神原、田中、竹股の各常議員並に牧野主事の方々御出席になり定刻に至るや會長開會を宣べられ次で柴原書記長前回の役員會の経過報告の後、次の6案件につき順次審議決定された。

1. 昭和9年度關西支部豫算に關する件 この件に關しては昭和9年度に於ける關西支部豫算を本會に報告し來りたるものにしてこれは適切なるものと認め滿場一致これを承認することに決定した。

2. 職業紹介に關する件 この件は以前よりの計畫案の重要なものにして求職側並に求人側の需めに應じ土木技術者の適材を適所に本會が自ら斡旋紹介に努めるものにして社會的に需給の圓滑を圖る事を目的とするもので本會の如き信用ある大團體が責任を以つてこれが衝に當ることは求人、求職兩者共誠に好都合にして今後利用される向も非常に多き事と思はる。これは厚紙にて求職、求人、の兩カードを造りこれに適切な欄を設け會誌に挿入して一般會員に配布し各方面よりの申込に應じ本會がこのカードを適當に整理按配して目的を果すにあるも、只求職申込者は本會に入會せし人に限る事とし、カードの様式等に關しては尙よく熟慮の上現在の要項を修正して次回の臨時役員會に上程審議することとなつた。

3. 通常總會開催日時件 今年度の總會は從來の會長講演を廢止して會長は任意挨拶所感を述べる事になり、これに代ふるに伊藤仁太郎(痴遊)氏に依頼して趣味の土木談とでも云ふべき講演を加へて會場を潤し、露々裏に總會を完了する豫定に付多數會員の出席あるを豫想し、又出席會員の大多數は公職にある方が多いので土曜日の午後1時頃か平日の午後5時頃か適當にて、その何れを選ぶかに就き種々比較審議の結果平日説多く結局2月15日(木曜日)午後4時30分より帝國鐵道協會に於て開催することに決定した。

4. 通常總會當日講演の件 從來の總會に例を見ざりし土木に關係ある漫談的講演として斯界の名士を煩はす演題に付て、最初の案としては「寶曆治水美談」が適當の如きも尙講演者の意向も質して「大久保侯と土木公債」の如きを特に面白く且つこれを記録に止めて會誌に發表し一般會員の爲になる如き演題の選定方を當事者より極力交渉して次回の臨時役員會に於て定める事にした。

5. 役員選舉開票に關する件 役員選舉の投票は從來通常總會の席上で開票してゐたが先般の定款改正によつて役員會で開票しその結果を總會に報告し承認を得ることになつたので2月初旬役員會を開催して同會に於てこれを開票し、その結果を通常總會に報告承認を得る事とした。

6. 入退會の件 本會は昨年よりその組織機能の改革を完成したので事業運行の好調を示し、一般の興望を得、これが爲新入會者激増し昨年末より現在迄に80名の新入會申込並に轉格者も豫想外の數字を示した、これは全會一致承認と決し、この増加状態をダイアグラムとして總會の會長所感述辭の際本會進況の例として一覽表を提示される事に決定した。

以上に於て今回の案件は全部圓滑に審議終了となつたので6時50分閉會、精進の機運漲る昭和9年初頭に於ける第一回役員會は幕を閉じた。



## 編 輯 委 員 會

第一回編輯委員會を1月15日開催、一般の議題は何等特筆すべきことなく進行したが今回はその外に色々の問題に就て協議せられ決定したのも澤山あつたのである。

**論説報告に對する謝禮** 従來は各論説報告に對しその都度謝禮を贈呈して居たのであるが同一表題の下に數回に分割發表したものと一回にて完結せるものとの間に均衡を保てない嫌があるとの議が出たので協議の結果今後同一表題の下に分割登載せる場合は完結を俟つて謝禮を決定し贈呈することとした。

**優秀論文** 前回に於て5著者、5論文を選擇しこの内より論文を選定することになつたのであるが種々協議の結果第十七卷第五號、第十號及び第十八卷第六號に續いて發表せられ昭和八年度に於ては第十九卷第七號及び第十號に登載せられた會員工學博士福田武雄著“*Theorie der Roste und ihre Anwendungen.*”を昭和八年度第一土木賞牌を贈呈すべき優秀論文として推薦することに決定し、これを役員會に報告することになつたのである。

**土木學會誌發行者名義變更** 従來本會誌の編輯兼發行者は北村嘉太郎君であつたが同君が退任せられたのでこれを變更する必要を生じた。これに就て色々協議した所「土木學會」としては如何との議もあつたが學會誌は出版物法によるものであるから何か事があつた場合に一寸面倒であるから結局書記長柴原龍兒君が適當であらうと言ふことになつたのである。而しこれは編輯委員會のみで決定すべき事柄でもないので主事に諮ることとした。

**抄 譯** 抄譯の制度改正に就て大分前から色々議論があつたが昭和八年度中は従來の儘として來たのである。而し従來の制度では責任以上本會の爲に盡された方に何等報ゆることが出來ないと言ふ様な不合理な點があつたのである。そこで先づ固定額  $a$  を定め之れに出來高員數或ひは原文の量等を考慮し加算して半期或ひは一年間の謝禮を決定すべきである。即ち  $A = a + bx$  又は  $A = a + bx + cy$  等の形とせねばならないと言ふ意見が多かつたので次回迄に具體案を作製してこれによつて審議を進めることになつた。

**その他** 論説報告の著者が如何なる人かを一目瞭然たらしむることは會員諸士に便する所多大なりとの議あり一同賛意を表し直ちに昭和9年1月より著者の勤務職名を脚註として記載することに決定したのである。

## 維新以前日本土木史編纂委員會

本委員會は各委員の方々所用の爲めか出席者のいと少なりしは甚だ遺憾なりとす。

本學會誌第十九卷第十號昭和八年十月號には本學會に集まりし土木史資料照復事項、學會に於て筆寫せるもの、借入書籍、累計報告等の其日分の報告ありしもそれ以前或はそれ以後の分の報告はまだ發表せざりしを以て次に今後引續き紙上に掲載することとせり。

。土木史編纂委員會の設置せられたるは昨年即ち昭和8年10月にしてそれ以後本學會に寄贈或は貸與せられた資料は次の如し。

### 資 料

西 宮 町 誌  
松本市及附近土木史資料  
嘉 穂 郡 誌  
水 戸 水 道

西 宮 市  
松 本 市  
飯 塚 市  
水 戸 市

熊本縣下に於ける加藤清正の築造せりと稱するもの

西ヶ原一里塚

維新以前の管内土木事業を調査するに参考となる可き書名

壽庵廬に就て

山形縣誌

林清治郎治績

大阪市史第一、第二

大京都の都市計畫に就て

京都都市計畫小誌

京都市都市計畫敷地割報告書

大正十三年に開催せる京都市計畫展覽會に京都市時代參考

品として出陳せるものゝ目錄

風水年表

京都大火

京都火災年表

京都都市計畫誌

京都市圖

平安京と現京都街衢比較圖

我國維新以前地圖測量の沿革

兵庫縣史蹟名勝天然記念物調査報告第六輯

静岡市史第一卷

錦帶橋記事

四日市市史

維新以前日本土木史資料

安井政章氏略譜

資料

土木史資料

岩國錦帶橋に就て

加古川流域舟伐路開鑿事業

赤穂水道

横濱の史蹟と名勝

古圖

舊藩時代の耕地擴張改良事業に關する調査

赤穂城

治水及填築

資料

淡路鹽田港修築記録寫

資料

名古屋史要

重修加越能大路水徑外資料

兵庫加古新村の開拓

滿濃池の由來

地理的に見た宿場町の概念

明治維新前に於ける北海道々路史

寛内務技師

名井前會長

東京府

江澤委員

山形縣

戸畑市員

島委員

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

京都市市

名井前會長

兵庫縣

静岡市

山口縣

四日市市

福山市

前橋市

山形縣

兵庫縣

佐藤早大講師

兵庫縣

兵庫縣

横濱市

岐阜縣

有働委員

兵庫縣

東京土木出張所

山形縣

兵庫縣

大分縣

名古屋市

富山縣

兵庫縣

菊池内務技師

名井前會長

北海道

德川理財會要  
 馬の頭井掘工事  
 赤穂新濱附近鹽田開拓運河開鑿海岸堤防築造  
 赤穂矢野村史料  
 德田孫四郎寫真  
 新井用水路事蹟古文書  
 高砂港新舊比較圖  
 辰巳用水  
 史料  
 廣島堤防史  
 沖繩縣土木史  
 畿内治河記大和川附換記  
 慶應圖書館圖書目錄  
 史料  
 岡崎市史第八卷  
 都城土木史  
 史料並原板  
 長岡市史  
 長岡及近郷土木史  
 長岡市と近郷  
 金澤市紀要  
 史料  
 靜嘉堂文庫目錄  
 日比谷圖書館郷土志料目錄  
 同地誌目錄  
 慶應圖書館郷土志料目錄  
 越中地誌  
 越中舊事記前田氏家乘  
 富山縣地理文献集  
 江間舊堤に關する記録  
 津田兵部重定傳  
 駿車郡誌灌漑水利  
 布施丹後事蹟  
 函館砲臺新築書類  
 五稜郭創置年月取調書  
 函館龜田五稜郭御上水引入仕様御入用控  
 七重村藥園起源  
 資料  
 兵庫飾磨港に關する資料  
 大槌七兵衛周蔭彌兵衛事蹟  
 淺野公開發新濱鹽田及運河及防波堤及言記  
 古志の生める人々曲ケ物の井戸側紀德碑  
 史料  
 編纂史料

購買  
 佐賀縣松浦村  
 兵庫縣  
 兵庫縣  
 兵庫縣  
 兵庫縣  
 石川縣  
 德島縣三好郡井内谷村  
 廣島縣  
 沖繩縣  
 大阪府  
 慶應圖書館  
 長崎縣  
 岡崎市  
 都城市  
 兵庫縣  
 長岡市  
 長岡市  
 長岡市  
 金澤市  
 栃木縣  
 靜嘉堂文庫  
 日比谷圖書館  
 日比谷圖書館  
 慶應圖書館  
 富山縣  
 富山縣  
 富山縣  
 瀧内務技師  
 瀧内務技師  
 瀧内務技師  
 千葉市  
 北海道廳  
 北海道廳  
 北海道廳  
 北海道廳  
 愛媛縣  
 兵庫縣  
 島根縣  
 兵庫縣  
 長岡市  
 宮城縣  
 仙臺市

高 松 市 史

立花橋架設功勞者録記並岩城村土木のこと

橋に関する資料並寫眞

滿 濃 池 史 要

城 圖 七 坂

今 津 村 史

南部利直公外圖面

農林省圖書目錄

阿波藩民政資料上下外寫

土 木 資 料

高 松 市

愛 媛 縣

奈 良 縣

香 川 縣

山 形 市

德島縣今津村

盛 岡 市

坂 井 委 員

德 島 縣

鳥 取 市

以下次號に掲載。